

プレス発表資料

平成21年4月24日
独立行政法人 防災科学技術研究所

「地域発・防災ラジオドラマ in 藤沢」放送について

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、4月から、神奈川県藤沢市との共同研究の一環として、「地域発・防災ラジオドラマ」の放送を開始しました。このラジオドラマは、大地震の際に避難所で起こりうる8つのシーンについて、住民等が避難所運営等に関わる登場人物を即興的に演じながら各シーンの対応方策をシナリオ風にまとめたものです。

ドラマの制作にあたっては、鶴沼中学校区防災連絡会（住民による避難所運営組織）やNPO法人藤沢災害救援ボランティアネットワーク、地元の高校生ボランティア、藤沢市役所（災害対策課）、鶴沼中学校の教員の方々にご協力をいただきました。これは、「地域発」の手作りのラジオドラマの制作を通じて、地域のさまざまな主体の協働関係が構築され、防災対策の促進につながることを期待しているためです。

この放送は、神奈川県の湘南地区を放送エリアとするコミュニティFM局「レディオ湘南」から聞くことができます。また、放送済みのラジオドラマは、当研究所のホームページから音声ファイルをダウンロードしてパソコンなどでも聞くことができます。

1. 内容：別紙資料による。
2. 本件配布先：文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会、藤沢市記者クラブ

【内容に関するお問い合わせ】

独立行政法人防災科学技術研究所
防災システム研究センター

長坂俊成

電話：029-863-7546

FAX：029-863-7541

【連絡先】

独立行政法人防災科学技術研究所
企画部広報普及課

佐竹、山科

電話：029-863-7783

FAX：029-851-1622

「地域発・防災ラジオドラマ in 藤沢」放送について

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、4月から、神奈川県藤沢市との共同研究の一環として、「地域発・防災ラジオドラマ」の放送を開始しました。この防災ラジオドラマの制作にあたっては、鶴沼中学校防災連絡会（住民による避難所運営組織）やNPO法人藤沢災害救援ボランティアネットワーク、地元の高校生ボランティア、藤沢市役所（災害対策課）、鶴沼中学校の教員の方々にご協力をいただきました。「地域発」の手作りのラジオドラマです。ラジオドラマは神奈川県の湘南地区を放送エリアとするコミュニティFM局「レディオ湘南」から聞くことができます。また、放送済みのラジオドラマは、研究所のホームページから音声ファイルをダウンロードしてパソコンなどでも聞くことができます。

1. 放送局

レディオ湘南（FM 83.1MHz）

聴取エリアはラジオ局のホームページ <http://www.radioshonan.co.jp/> で確認ください。

2. 放送予定日

再放送も含めて毎週木曜日 13:00 ~ 13:30

- 第1回 避難所施設の安全確認と開設（4/2 放送）
- 第2回 避難者名簿の作成をどうするか（4/16 放送）
- 第3回 避難所に来られない人の存在が分かったら（5/7 放送）
- 第4回 近所の飲食店からの食料の差し入れ（5/21 放送）
- 第5回 外国人被災者との関係を考える（6/4 放送予定）
- 第6回 新住民と旧住民との関係を考える（6/18 放送予定）
- 第7回 災害ボランティアが地域に受け入れられるにはどうするか（7/2 放送予定）
- 第8回 介護の必要な家族を抱えた被災者への地域からの支援（7/16 放送予定）

3. 放送済みの音声ファイルのダウンロード

独立行政法人防災科学技術研究所のホームページ <http://bosai-drip.jp/>

なお、ドラマの放送用脚本の素となったシナリオは、鶴沼中学校防災連絡会が2008年7月に実施した「シナリオ型避難所運営ワークショップ」（防災科学技術研究所が手法を開発）で作成されたものです。平成21年度の藤沢市の研究事業としては、災害シナリオワークショップや地域発の防災ラジオドラマづくり、インターネットを用いた防災マップづくりのモデル事業にご協力いただける町内会や自主防災組織、避難所運営組織、PTAなどのグループを募集しています。防災科学技術研究所は、「シナリオ型避難所運営ワークショップ」や「地域発・防災ラジオドラマづくり」などを支援するツールの提供を通じて、市民協働により地域の防災力を向上させる取り組みを支援してゆきます。

【補足説明】 シナリオ型避難所運営ワークショップと防災ラジオドラマづくりについて

独立行政法人防災科学技術研究所では、災害時に被災地に実際に起こることを住民主体で考えるための方法として、地域の災害シナリオの作成を提案しています。災害シナリオとは地域の具体的な事情を勘案して、災害時に起こることを時間に沿って整理したものです。神奈川県藤沢市の鶴沼中学校地区防災連絡会ではこのシナリオを作る過程を体験する「シナリオ型避難所運営ワークショップ」を2008年7月に実施しました。鶴沼中学校地区防災連絡協議会は、藤沢市立鶴沼中学校を避難所とする11の町内会、自治会の住民から構成される組織です。

防災科学技術研究所は、過去の地震災害の際に被災地の避難所やその周辺地域で実際に発生した事態を分析し、特に、減災に寄与する地域の内外の協働のネットワークづくりを促進させるという視点から27の状況（シーン）と課題を抽出しました。

ワークショップは、鶴中防災連絡協議会のメンバーだけでなく、教職員の方々や市民センターの職員の方々、地元NPOの方々も参加するなかで進められました。まず、災害が発生して避難所が開設されることから始まり、運営していくときに生じるさまざまな課題について、一つずつ丁寧に議論され、防災科学技術研究所が用意した27の課題のうち8つの課題について実際に関係者が考え、発言するだろう意見を書きだしたシナリオが作成されました。その後、シナリオ化によって明確になった地域の課題や問題点を、地域に関係する人材やさまざまな地域資源をフルに活用して、解決するための方法を議論しました。これによって行政だけに依存しない自主的な災害対応の可能性が大きく広がりました。ここで作成されたシナリオに基づいて、地元ボランティア、町内会の役員、演劇サークルの学生さんらの協力の下で、地域発の防災ラジオドラマが制作されました。このドラマは災害時に地域密着の情報を発信することが期待されている地元コミュニティFM局である「レディオ湘南（83.1MHz）」から放送されています。

番組では、こうして作られた災害シナリオに基づいて、避難所に起きる8つのシーンをドラマにしましたが、同時に行政やボランティア、専門家によるコメントも取り入れられています。